（若狭鯖街道熊川宿資料館（宿場館）　展示説明：宿場町以前の熊川宿）

宿場町時代より前の熊川

16 世紀後半に熊川がポストタウン（宿場）へと発展する前は、若狭国と近江国（それぞれ、現在の福井県と滋賀県）の国境近くにある小さな村にすぎませんでした。熊川の南東にある保坂峠を通過した若狭街道を行く旅人たちは近江国に渡り、引き続き東の今津や琵琶湖へ向かうか、または南に向かって朽木、大原、京都（当時の首都）に行くことができました。記録によれば、15 世紀初頭には熊川の近くに人や物を検査する施設があり、若狭海道はすでに首都と日本海を結ぶ重要なルートであったことがわかります。

沼田氏

16 世紀には、熊川地域は沼田氏によって統治されていました。熊川城の領主である沼田光兼の娘である麝香（1544 年～1618 年）は、権力のある細川氏と結婚するために選ばれました。彼女の夫である細川藤孝（細川幽斎としても知られる 1534 年～1610 年）は、著名な武将であり、著名な作家であり、後に丹後国（現在の京都府北部）の領主になりました。麝香自身は、1600 年の包囲戦で田辺城を守った一人として有名になりました。彼女はキリスト教に改宗したことから、細川マリアとしても知られるようになりました。

若狭街道

熊川を貫く若狭街道は、主に交易路でしたが、時には軍事目的で使われることもありました。強力な武将のリーダーであった織田信長（1534 年～1582 年）の伝記によると、信長と彼の武将たちは、1570 年に隣接する越前国（現在の福井県北部）の領主に対する行軍中に熊川に一晩滞在しました。